

# 後輩たちへのエール！ その66

2022年8月18日

## 高校生のうちに知っておきたかったこと

◇今回は、那須さくらさん(東京農工大学大学院在籍)からのメッセージです！

数ある卒業生メッセージの中からこのページを開いてくださりありがとうございます。私は2017年に関高校を卒業して、現在は東京にある研究室で論文とにらめっこをしている大学院生です。恩師に記事を書く機会をいただいたので人生を振り返ってみたのですが、突飛な経験も面白いエピソードも思い出せませんでした。なので、今回は「もし私が中高生の時に知れていたら良かったこと」というテーマで書いていきたいと思います。これを読んでくださっているあなたが、いつかふとした瞬間に、どっかの大学院生がこんなこと書いていたなと思い出していただけるような内容を目指します。拙い文章ではありますが、どうぞ最後まで気軽にお付き合いいただけると幸いです。

まずは私の自己紹介をすると、現在は東京農工大学大学院の応用生命科学コースに所属している修士2年生です。春からは化粧品メーカーで化粧品の開発をすることになっています。大学では学業の傍らダンスサークルで3年間活動し、ミスコンテストの運営にも携わりました。関高校では新体操部で活動し、初めて文化祭で新体操部としてダンスをしました。当時の関高はSGHというグローバル化推進校に指定されていたため、そのプログラムの一環として募集されていた礼文島の国際発掘調査に参加しました。そのほかにもイギリス研修に参加させていただき、イギリスで現地の高校生や大学生との交流を経験しました。

私は学生生活を通して多種多様なアルバイトをやってみました。和食の飲食店にはじまり、アパレル販売やアミューズメントパークのスタッフなど幅広い職を経験しました。その中では結婚式場のアルバイトを長く続けています。結婚式場では新しい役目に挑戦しつつ、アルバイト全体を育てるような役割を任されています。

その役割やこれまでのアルバイト経験を通して感じるのは、「他の子を見て真似できる子は強い」ということです。中高生のうちは真似するなんて幼稚なことだと感じる人も多いのではないのでしょうか。しかし、他の人を見て真似することは意外と難しいことです。というのも、誰かのことを真似るとは「他人の動きを発見して学び、それを自分のものにする力」が必要だからです。

時に、自分自身を仕事のできる人間に見せたいと思った場合に、どんな姿勢を示せば良

だと思いますか。その時によくある間違いが、ここで述べているように周囲から学ぶ姿勢ではなく、素早く終わらせようとする姿勢のことです。

例えば、私も別の飲食のアルバイトを始めた当初、何事も効率良く早くできる人が良いと考えていました。ですが、教える立場になってから気づいたことは、最初から早くできるかどうかは重要ではないということです。むしろ、全体を把握していない時にさっさと作業されると必要な工程を飛ばしていたり、丁寧にやる必要がある部分を雑にしていたり、マイナスな印象を受けることもあるくらいです。真似する力は何を始める時、上達させる時、いろんな場面で役立ちます。

高校や大学といった新しい環境になってからも成長し続けたいと考えるなら、まずは今の環境で誰かを真似することから始めてみてください。真似する相手はだれでも大丈夫です。例えば、クラス子の友達の作り方とか塾仲間の勉強に対するモチベーション維持方法とか、部活の仲間の得意な技とかルーティン等々。

今の時代はSNSでいろんな情報が手に入ると思うので、SNSで見つけた人が対象でもかまいません。さて、ここまで読んでくださった方の中には、それだと誰かの二番煎じのような感じがすると嫌悪感を抱いた人もいないでしょうか。そう感じるのも当然で、その原因は全てを真似ようとしているからなんです。決して全てを真似る必要はなく、あなたの中にある良し悪しの基準のもと、あなたが真似たいと思う部分だけ真似ていけば良いのです。そうして磨いた真似する力によって得た経験の組み合わせは他の誰とも被ることはなく、自分だけの経験及び自分自身の成長に繋がります。

最初にお伝えした通り、真似をする＝”周囲の人を見て学ぶことで自分の力にする”ことです。私は幼少期から十数年間ダンスを続けているため、目指すべき人を注視して学び、そこに自分自身を近づける練習をしてきました。一方で、真似することをあまり経験していなくて、どこを真似たら良いか分からない人もいます。そんな時には、「周りの人の良いところを見つけること」がおすすです。

同級生の、部活の同期の、先輩の、先生の、親の、幼馴染の良いところを探してみてください。想像以上にどの人にも尊敬できる部分が出てくると思います。物事の捉え方や目標に向かう行動力、相手に対する誠実さ、目の前のことに対する考え方のように今まで見えていなかったことが見えてくるはず。周りの人の良いところが見えてきたら、その中で“自分にとっても良いこと”かつ“自分にもできそうなこと”を探して真似てみます。これを繰り返していくことで真似する能力は段々と向上します。

これから先、自分の能力の停滞を感じた時や新しい環境に馴染めない時が訪れたら、この話を思い出してください。「真似する力」を磨いたあなたは、きっとどんな状況になっても周囲から多くのことを吸収して、強く成長できると信じています。

## 関高での活動



## 大学でのサークル活動



## 大学院の研究室の同期

